

ガレージやベランダでもできる～段ボール箱で生ごみ減量・堆肥化～

「生きごみさん」作り方・育て方②

生きごみさんは、

堆肥に使用した後も、分解床が残っていれば、腐葉土を追加することでいつまでも使用できるよ。

気軽に、楽しく、生きごみさんを続けて、ごみの減量につなげよう♪



どんな生ごみがいいの？

【好きな生ごみ】

米粒や野菜くず、煮たり焼いたりしたお肉やお魚の残りなど。お茶がらやコーヒーかすもOKだよ。

【苦手な生ごみ】

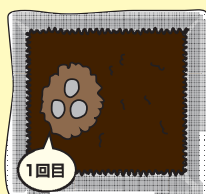
生ごみは、大きいと分解しにくいので小さめに。堅いもの、生もの、塩分の多いものは避けよう。枯葉・枯草は分解が追い付かないから入れないで！

2.育てる♪

1 回目

※初日は、段ボール箱の中の温度が上昇していることを確認してから始めよう！（もわっとした空気が出ていればOK）

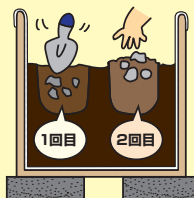
分解床に直径・深さ15cmほどの穴を掘り、生ごみ約500gを入れ、その上に土をやさしくかぶせ、中袋とフタを閉じる。



上から見た図

2 回目

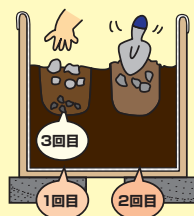
分解床に、前回とは違う場所に穴を掘り、そこへ生ごみを入れ、やさしく土をかぶせる。前回ごみを投入した場所を、スコップで数か所ザクザクとつつき、空気を適度に入れる。



横から見た図

3 回目

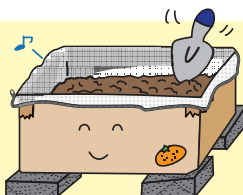
投入1回目の場所に穴を掘り、生ごみを入れて、やさしく土をかぶせる。
（※1回目のごみが残っていても、気にしない!）
前回ごみを投入した場所へ、スコップで空気を適度に入れる。



4回目以降は以上の作業を繰り返す。

投入から1週間ごと

水分を適量加えながら、箱全体をまんべんなくかき混ぜる。土の中からごみが出てきたら、やさしく土をかぶせておく。



3.堆肥にする♪

堆肥として活用しよう

1.元肥の作り方

堆肥のもと（約1～2か月育てた分解床）の約半分を取り、5倍量の土と混ぜ、時々水を加えてかき混ぜながら、夏場は1か月、冬場は2か月ほど寝かせて、完成。



2.追肥としてちょっと使いたいときは？

追肥として、堆肥のもとをそのまますぐに使うこともできます。

【注意】植えものの根から必ず離して、堆肥のもとを置いてください。

根腐れに注意してね!



苗と苗の間に置く